

要地方言活用体系記述の項目別再編集

日高 水穂（編）

これまで方言文法研究会では、『全国方言文法辞典資料集(2)活用体系』（2014年）、『全国方言文法辞典資料集(3)活用体系(2)』（2017年）、『全国方言文法辞典資料集(4)活用体系(3)』（2018年）、『全国方言文法辞典資料集(5)活用体系(4)』（2019年）、『全国方言文法辞典資料集(7)活用体系(5)』（2022年）、『全国方言文法辞典資料集(8)活用体系(6)』（2024年）、『全国方言文法辞典資料集(9)活用体系(7)』（2025年）を刊行し、以下の56方言の活用体系記述を行ってきた。

01	北海道北見市常呂町岐阜方言	朝日祥之	資料集(7)
02	青森県五所川原市方言	田附敏尚	資料集(9)
03	岩手県盛岡市方言	竹田晃子	資料集(2)
04	宮城県仙台市方言	武田拓	資料集(4)
05	秋田県由利本荘市本荘方言	日高水穂	資料集(2)
06	山形県山形市方言	竹田晃子・澤村美幸	資料集(3)
07	福島県福島市方言	半沢康	資料集(4)
08	茨城県水海道方言	佐々木冠	資料集(3)
10	群馬県藤岡市方言	新井小枝子	資料集(3)
12	千葉県南房総市三芳方言	佐々木冠	資料集(4)
13-1	東京都方言	三井はるみ	資料集(3)
13-2	東京都八丈島三根方言	三樹陽介	資料集(5)
14	神奈川県大和市方言	坂本薫	資料集(9)
15-1	新潟県新潟市方言	三樹枝里	資料集(9)
15-2	新潟県魚沼市方言	吉田雅子	資料集(5)
16	富山県富山市方言	小西いずみ	資料集(2)
17	石川県能登島方言	野間純平	資料集(3)
18-1	福井県大野市方言	松倉昂平	資料集(4)
18-2	福井県坂井市三国町安島方言	松倉昂平	資料集(9)
19	山梨県甲府市方言	吉田雅子	資料集(2)
20	長野県茅野市方言	大西拓一郎	資料集(5)
21-1	岐阜県高山市方言	山田敏弘	資料集(8)
21-2	岐阜県岐阜市方言	山田敏弘	資料集(2)
21-3	岐阜県中津川市方言	野田太暉	資料集(9)

22	静岡県湖西市方言	森勇太	資料集(3)
23	愛知県新城市作手方言	山田敏弘	資料集(3)
25-1	滋賀県長浜市方言	酒井雅史	資料集(2)
25-2	滋賀県湖東方言	逸民誠	資料集(7)
26	京都府京都市方言	松丸真大	資料集(2)
27	大阪府方言	野間純平	資料集(2)
28	兵庫県神戸市方言	酒井雅史	資料集(3)
30	和歌山県田辺市龍神方言	西尾純二・澤村美幸	資料集(5)
31	鳥取県倉吉市方言	野間純平	資料集(4)
32	島根県出雲市平田方言	平子達也・友定賢治	資料集(4)
33	岡山県岡山市方言	小島裕将	資料集(3)
34	広島県三次市方言	小西いずみ	資料集(3)
35	山口県東周防方言	船木礼子	資料集(2)
37	香川県高松市方言	乙武香里	資料集(5)
38-1	愛媛県松山市方言	久保博雅	資料集(4)
38-2	愛媛県大洲方言	宮岡大	資料集(7)
39	高知県宿毛市方言	松丸真大	資料集(3)
40-1	福岡県福岡市方言	平塚雄亮	資料集(2)
40-2	福岡県柳川市方言	松岡葵	資料集(7)
41	佐賀県武雄市北方方言	原田走一郎	資料集(5)
42-1	長崎県雲仙市南串山町鬼池方言	野田智子・東出朋	資料集(8)
42-2	長崎県佐世保市宇久町方言	門屋飛央	資料集(4)
44-1	大分県由布市庄内町方言	松田美香	資料集(3)
44-2	大分県日田市天瀬町方言	松田美香	資料集(9)
46-1	鹿児島県鹿児島市方言	平塚雄亮	資料集(4)
46-2	鹿児島県甕島里方言	平塚雄亮	資料集(3)
47-1	沖縄県那覇市首里方言	仲原穰	資料集(2)
47-2	沖縄県宮古島市平良下里方言	中本謙	資料集(2)
47-3	沖縄県宮古島市久松方言	陶天龍	資料集(8)
47-4	沖縄県多良間島方言	下地賀代子	資料集(3)
47-5	沖縄県竹富町黒島方言	原田走一郎	資料集(5)
47-6	沖縄県与那国方言	目差尚太	資料集(8)

本稿は、以上の 56 方言の活用体系の記述から、活用形（項目）別に記述を抽出し、記述の用語を整えるなどの修正を行ったうえで再編集するものである。

以下に、要地方言の活用体系記述で使用する用語について説明する（詳細は『資料集(3)・(4)・(5)』に掲載した「この報告書における記述の枠組み」を参照のこと）。

活用型による動詞分類

多段型動詞…学校文法の四・五段活用動詞にあたる。必要に応じて「多段一般型動詞」と「多段特殊型動詞」に分ける。

一段型動詞…学校文法の上一段・下一段活用動詞にあたる。

二段型動詞…学校文法の上二段・下二段活用動詞にあたる。上の「一段型動詞」と区別が必要な場合に用いる。

「来る」…学校文法のカ行変格活用動詞にあたる。

「する」…学校文法のサ行変格活用動詞にあたる。

活用形（共通に取り上げるもの）

《動詞》

終止類…断定非過去形、断定過去形、命令形、禁止形、意志形、推量形

接続類…連体非過去形、連体過去形、中止形、仮定形

派生類…否定形、丁寧形、使役形、受身形、可能形、尊敬形、継続形、希望形、のだ形

《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》

終止類…断定非過去形、断定過去形、推量形

接続類…連体非過去形、連体過去形、中止形、仮定形

派生類…否定形、なる形、副詞形、丁寧形、のだ形

※以上のほか、要地方言に特有の活用形がある場合は、個別に記述する。

動詞の活用形の構造記述

語幹…音素を音韻単位として抽出できる、活用形の不変化部分。共通語の「書く」は{kak}、「見る」は{mi}、「来る」は{k}、「する」は{s}を語幹とする。

基幹…語幹末が子音の場合、基幹＝語幹＋母音。語幹末が母音の場合、基幹＝語幹。おおよそ学校文法の「語幹＋語尾」に相当する。共通語の「書く」「見る」「来る」を例に、活用形の構造記述を示す。

否定形	カカナイ	カカ（基幹ア段形）＋ナイ
希望形	カキタイ	カキ（基幹イ段形）＋タイ
断定過去形	カイタ	カイ（基幹音便形）＋タ
断定非過去形	カク	カク（基幹ウ段形）
仮定形	カケバ	カケ（基幹エ段形）＋バ
意志形	カコー	カコー（基幹オ段長音形）
否定形	ミナイ	ミ（基幹（＝語幹））＋ナイ
断定過去形	ミタ	ミ（基幹（＝語幹））＋タ
断定非過去形	ミル	ミ（基幹（＝語幹））＋ル
否定形	コナイ	コ（基幹オ段形）＋ナイ
断定過去形	キタ	キ（基幹イ段形）＋タ
断定非過去形	クル	ク（基幹ウ段形）＋ル

形容詞の活用形の構造記述

語幹…動詞と同様に活用形の不変化部分。共通語の「赤い」は{aka}が語幹となる。共通語の「赤い」の活用形の構造は以下のように記述する。

断定非過去形	アカイ	アカ（語幹）＋イ
断定過去形	アカカッタ	アカ（語幹）＋カッタ
否定形	アカクナイ	アカ（語幹）＋クナイ

交替語幹…西日本諸方言の中止形・否定形・なる形などで現れる「アコーテ」「アコーナイ」「アコーナル」の「アコ」のように語幹末母音が変化した形。

形容名詞述語の活用形の構造記述

学校文法の「形容動词语幹」にあたる語類を「形容名詞」とする。共通語の「静かだ」「元気だ」であれば、「静か」「元気」の部分がこれにあたる。活用形として記述するのは、後続するコピュラ相当形式の形態変化となる。共通語の「静かだ」の活用形の構造は以下のように記述する。

断定非過去形	シズカダ	シズカ（形容名詞）＋ダ
断定過去形	シズカダッタ	シズカ（形容名詞）＋ダッタ
連体非過去形	シズカナ	シズカ（形容名詞）＋ナ
中止形	シズカデ	シズカ（形容名詞）＋デ
仮定形	シズカナラ	シズカ（形容名詞）＋ナラ

名詞述語の活用形の構造記述

名詞にコピュラが後続した形の形態変化を記述する。共通語の「学生だ」の活用形の構造記述例を示す。

断定非過去形	ガクセーダ	ガクセー（名詞）＋ダ
断定過去形	ガクセーダッタ	ガクセー（名詞）＋ダッタ
中止形	ガクセーデ	ガクセー（名詞）＋デ
仮定形	ガクセーナラ	ガクセー（名詞）＋ナラ

本稿では、動詞の活用形のうち、〈使役形〉〈受身形〉〈自発形〉〈可能形〉の記述を抽出し、再編集する。再編集にあたっては、上記の用語と構造記述の方針にそって、元の記述の内容を改変しない範囲で統一をはかった。ただし、元の記述に不備や情報不足がある場合には、元の原稿の執筆者に確認のうえ、修正したことがある（誤字・脱字や文脈上の矛盾などの明らかな不備については、編者の判断で修正した）。確認の結果、元の原稿の執筆者による新たな記述が加わったものもある。

要地方言の活用体系記述は、『全国方言文法辞典』の基礎資料となるものである。今回の再編集は、『辞典』に立項する文法形式の見出し語とその変異形を見さだめ、全国的な形式の分布を概観し、最終的な『辞典』の記述に活かすことを目的に行うものである。この作業が、各要地方言の記述の蓄積のうえに可能になっていることは言うまでもない。